

アミルズディ・ハッシム研究員（マレーシア）



皆さん、こんにちは。私はマレーシアから来たアミルズディ・ハッシムと申します。マレーシアは、地理的に特有な領土を有しています。東南アジアに位置し、国境をタイ、インドネシア、シンガポール、ブルネイ、フィリピンと接しています。国土は南シナ海によってマレー半島とボルネオ島に分かれており、総面積 32 万 9,847 平方キロに人口 2,800 万人が暮らしています。人口の 57%をマレー人が占め、残りは中国人、インド人、ブミプトラ（先住民マレー人）とその他人種で構成されています。このように豊かな文化遺産を持つ複合民族国家、それがマレーシアです。

また、国家の安定と平和においてもマレーシアらしい特徴があります。国内での紛争や対立などないこの国で私たち国民は平和に共存しています。ナジブ・ラザク首相の掲げたワン・マレーシアのスローガンでは「政府は、『1つの国家、国民優先、即実行』という理念と姿勢に基づき、主要課題として政府改革プログラムを遂行することを表明する」と述べています。この考えは、異なる民族や宗教から成るマレーシア国民がお互いの文化を十分理解・尊重し、共に歩み、手を携えて取り組み、そして社会経済的・政治的安定面から、マレーシアのより良い未来を実現するために責任を共有するということです。

現在私は、マレーシア気象局(MMD)のマレーシア中央気象台(CFO)に予報課課長補佐として勤務しています。気象予報がマレーシア気象局サービスの主要な業務です。ペタリンジャヤ地区のマレーシア気象局本部にある中央気象台は、公共気象サービスの提供のため1日24時間体制で稼働している中央センターです。MMDはマレーシア科学技術革新省管轄の科学的な業務を行う部局の一つで、気象、気候、地震、水害に関連する危険性の早期警戒を発信する役割を担っています。わが国は、台風、大地震、火山などの自然災害からの影響を受けにくい地理的条件にありますが、その一方、ある地域や沿岸水域では、大洪水、強烈な豪雨、熱帯低気圧、異常気象、その他自然災害を引き起こすモンスーンによる豪雨の脅威から免れることができません。早期警戒システムは、このような洪水、鉄砲水、煙霧、その他自然災害の影響を軽減するため、防災に携わる各政府機関、特に国家安全保障会議、マレーシア国家警察、国家市民防衛局、灌漑排水局、環境局、その他関係機関などに貢献しています。

私は ADRC の客員研究員として 2010 年の 1 月から 4 月まで日本に滞在しています。日本がどのように災害のリスクと共存しているのか、また総合的な防災政策 (TDRM) の優れた実践でどのように知識や経験を積んでいるのかについて学びたいと思っています。この客員研究員プログラムを支援してくださっている日本政府と ADRC に心からの感謝の意を

表します。このプログラムでは、他のメンバー国研究員達と各国における防災業務の情報や経験、そして教訓を交換するための大変貴重な機会を提供してくれます。このような機会を存分に利用し、私が日本で学び得る有益な防災関連情報や知識を、マレーシアの防災に関わる政府機関に普及していきたいと思います。そして災害に強いコミュニティを構築し、ハザードに対抗できるコミュニティの能力向上を行っていきたいと思っています。